





弓ハ袋不納もする。静けし御代ハ總ての人情拔る太刀功名のも。
 専とせる四民の頼方。後世おそる韓信ハ小股を潜りて利不沈り。
 お此の塵掃張良ハ黄石公の香をまきて山吹色を得る。花相似
 たる段紙のから摺瀆の真砂子の面白標史も。本文ハさう
 なる面黒うらと。年歳六度の歌舞伎を其例の合巻不抄
 録物。やうと通さぬ沽業の。道一の如才並木舎五柳名不高嶋の
 米升ふ。なるう込る豊饒を此出来秋の稗史不写し。のせう好
 事の雅。あるとつ字の幸先ハ當吾ダ傳記の初編の吉兆守
 田の神の田元帥也。井出を條田の作男を。護らるる不利益を。
 山田の實入も多うと。

文々々酉初秋

假名垣魯文序記



安刀

雄山

旗川柳の宮本之地
藩宮
社内の

佐太村

八幡宮



鳥居

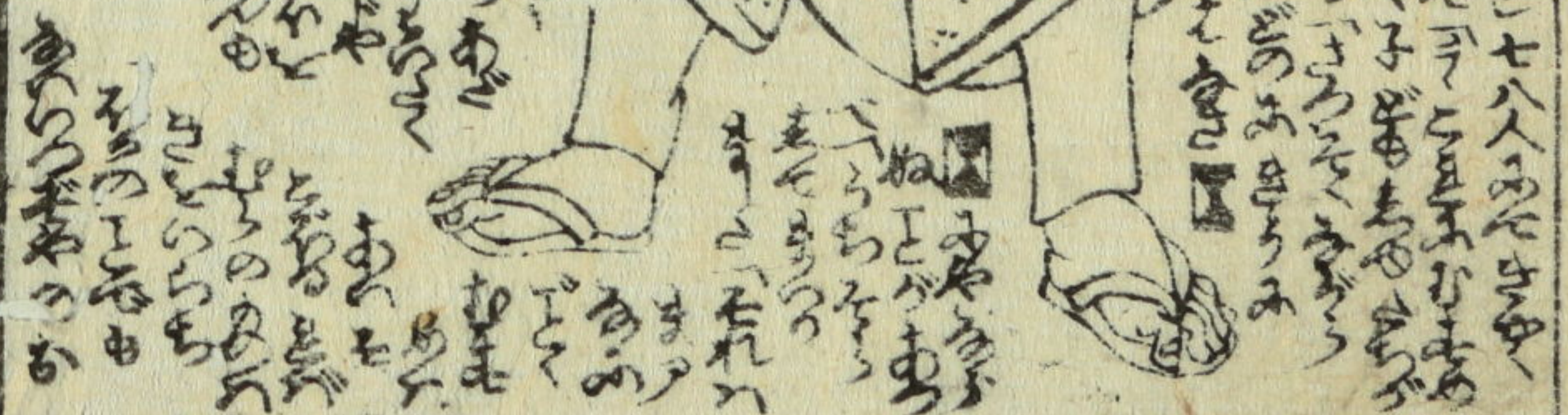
加納村



朝倉
當吾

水吉
秋
深
有人
二編
本名
出

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

...

ちのてい
るふ
るふ



いふもどろ
 中入る目よのちや
 あんまきえんのあえんぞの
 りも
 やそく
 うう
 お直下
 そのふみ
 ませむ
 とすきさ
 でいこうあの
 女をあらが代々をあらわす
 受下ぐのあんぎとのふりか
 めいくそりあざらあば
 つて人

